

## 医療否定本とその「否定」本

南部町 細田 庸夫

新聞で、「医者に殺されない47の心得」（近藤誠著、アスコム）の広告を見て購入した。いわゆる「医療否定本」で、著者の近藤氏は医師。

巻頭の「はじめに」から医療否定が始まる。「インフルエンザをワクチンで防げるとか、リレンザ等の治療薬で治せるといふ医学的根拠はなく、せいぜい『効果が期待されている』レベルです」。

「心得」という目次を拾ってみると、「とりあえず病院へは、医者のおいしいお客様」「がんの9割は、治療するほど命を縮める」「インフルエンザ・ワクチンを打ってはいけない」等、47の「刺激的」な心得が載っている。

数日後、今度は「病院で殺される」の広告を見て購入した。「長生きしたければ、行ってはいけない」の副題がついたこの本は、船瀬俊介著、三五館出版。著者の船瀬氏は医療ジャーナリスト。

目次に「インフルエンザ・ワクチン殺人、予防効果はゼロ」があり、そこを開いた。インフルエンザ・ワクチン接種後に死亡した中学生の話から始まって、「ワクチン無効！ ウイルス学の常識」の中見出しがあった。「現代医療の大崩壊が始まった」と題した「まえがき」には、「風邪薬：絶対飲むな！ 治す薬はない。寝てれば治る」の一文が載っている。

この本の隣に同じような医療否定本があったので、これも買った。「医学不要論」（内海聡著、三五館出版）。著者は精神科医のようである。

119ページにコレステロールに触れた一文がある。「血液中のコレステロールは、減れば減るほどガンや感染症になりやすい。これは医師なら多くの人が述べている『常識』である」。

以上は3冊の本の極々一部を紹介したに過ぎない。

その後、新聞広告で「『医療否定本』に殺されないための『48の真実』」という本を見つけた。著者は開業医の長尾和宏氏、扶桑社の出版。帯封には、「“がん放置療法”で後悔する前に、必ず読んでください」と印刷されている。

巻頭の「はじめに」で、著者は上記のような医療否定本に載っている、「がんはそのまま放置するのがいちばんよい」等の記載を信じて、治療を拒否する患者の方々に心を痛めている。そして、「医療否定本」は、「迷える患者を生んでいる」ことを憂えている。

「がん放置療法の勧め」に対する、「『がん放置療法』は医療ではなく、『がん監視療法』が医療である」の記述に納得した。

健康に関する雑誌や単行本がたくさん売られている。新聞広告の題を見る限り、「買って読んで実行したら、病気になることも、死ぬこともない」。

医学的知識に乏しい人が読んだら、それなりに納得する可能性がある。中には、心酔する人もある。更には、賛同的紹介をする新聞もある。

これらの諸情報を信じ、医療機関に行かないで済ます人も少なくないと思う。今通院している患者の方々も、このような本を読んで、心を動かされた人も居る筈。

「言論出版の自由」とは言え、このような「反社会的」内容の出版物が放置されているのは、「問題無し」とは言えないが、取締りの対象とはなり難い。

医療関係者、行政官庁の医療部門の方々は、このような本を一冊でも買い、その内容がどのようなものか位は知っておくべきと思う。